

2016年10月2日 聖霊降臨後第20主日

分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□57番 「しゅよわたしをあわれみ」

□改訂34番 「キリストの平和」

やってみよう

☆心を軽く

お友だちに嫌な事しちゃったな。家族に嫌な事言っちゃったなという気持ちでいる時、許してもらえたらどんなに嬉しいかを体感してみよう！

<用意する物>

（紙・えんぴつ・消しゴム・箱）

①学校で、家で、放課後や学童で、近所の子と遊んでいる時、友だちや家族（お父さんお母さん妹弟兄姉祖父母）などに対して意地悪をしたり、悲しい思いをさせたりした事を紙に書いてご覧。1人1枚でも2枚でも（小学生低学年や幼稚園保育園児はヒントを与えたり、聞き取って代筆したりしてサポートする）書く。

②書いたら箱に入れる。さっきまで軽い箱だったのに今は持てないくらい重い箱になっています。みんなのした嫌なことがぎっしりつまっているから。

③どうしたらこの箱軽くなる？一緒に考える時間を設ける。「許してもらおう」→「どうすれば許してもらえる？」→「いけなかったな悪かったなと思う」

④反対に友だちに嫌なことされたら怒りたくなるよね。でも友だちに「ごねんね、もうしないよ」って言われたら許してあげるよね。

⑤みんなの嫌な気持ちで重くなったこの箱、みんなが悪かったなと思えばきっと許してもらえるはず。そうすると気持ちが明るくなって、心が軽くなるね。そうするとこの箱も軽くなるのです。

⑥すべてを御存じの神様に今日の学びを報告しつつ、友だち同士、家族同士、嫌なことを見たり聞いたりした時にはいけないよと言える勇気を与えてくださいとお祈りしましょう。

話してみよう

①昨日までの1週間で家族やお友達とのやりとりで、とても腹の立ったことを思い出して、書いてみましょう。

②自分がしたことで誰かを怒らせたかも、と思ったことを思い出して書いてみましょう。→発表できる子どもは発表する。イエス様は、そういう時どうしたら良いとおっしゃったでしょうか

2016年10月9日 聖霊降臨後第21主日

福音書 ルカ 17:11-19

第一の日課 列王記下 5:1-14

第二の日課 II テモテ 2:8-13

立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。

ルカ 17:19

ねらい

- ・「ハンセン病」について知る。
- ・「清くされる（病気が治る）」ことと「救われる」ことの違いを考える。

ヒント

- ・「清くされる（病気が治る）」ことと「救われる」ことの違いを考える。
- ・「知る」は直訳では「見る、わかる」となる。

豆知識

- ・らい予防法について、日本のハンセン病については <http://www.hansen-dis.jp/>。
- ・説教では触れなかったが、ユダヤ社会では共にいることのなかったユダヤ人とサマリア人が、重い皮膚病にかかった者どうしで共に行動していた点に注目すると、新たな視点で物語を取り上げることができる。

説教

日本には昔「らい予防法」という法律がありました。「らい」というのは昔の病気の名前で、今はハンセン病と言われています。この病気は「らい菌」という細菌が体に入って起こる病気で、体が弱かったり、栄養がじゅぶんにとれてない人がかかりやすく、日本でかかっている人は今はもういないのですが、もしかかかってしまって、薬をのまずにほったらしておくと、顔や手や足の皮膚が固くなり、時には皮膚が死んでしまい、指と指の間がふさがってしまったり、目が見えなくなったりしてしまう重い病気です。今では薬で治るのですが、まだこの病気がよくわかっていない時代、人から人へ移るおそろしい病気だとされ、この病気にかかった人は「隔離療養所」に無理やり入れてしまい、家族や社会と切り離してしまおうという法律が「らい予防法」という法律でした。この病気にかかった人は全国で20くらいあった専門の病院に入れられて一歩も外にでることが出来ませんでした、お墓も病院の中でした。この病気にかかった人の家族も周りの人からいじめられたり仲間外れにされたりしました。その人を死んだことにした家族もありました。とってもひどいことです。そんな法律が「らい予防法」が亡くなったのは実は今から20年前、1996年のことです。私たちの国でもたった20年前までそんな法律があったのですから、今から2000年

前のイエス様の時代にハンセン病にかかった人や、その家族もとっても大変な毎日を送っていたのではないかと想像します。そうです、今日の聖書に登場する「重い皮膚病にかかった人たち」の「重い皮膚病」が「ハンセン病」のことだと言われているのです。この人たちはもしかすると「染るといけないから」と、人の近くに行っても話すことが禁じられていたのかもしれませんが、また住む場所も村の外か、隅のほうだったかもしれません。祭司が治ったと認めてくれなければ人のそばに行くことが認められていなかったと言われていきます。だから遠くの方からイエス様に向かって「どうかわたしたちを憐れんでください」と叫んだのです。「憐れんでください」とは、神さまに対して使う言葉で、痛みや苦しみ、悩みなどを持つ人や国のそんなつらい状態を良くしてください、という心の底からの願いです。イエスさまはそんな彼らに「よしわかった、私にまかせなさい。あなたがたを治してあげよう」とは言いませんでした、ただ一言「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われました。そういわれた10人は、この人なら私たちに憐れんでくれるのではないかと思っていたので、言われたとおりに祭司たちのところに向かいました。すると行く途中で病気が良くなっているのに気づきました。病気が治ったのは10人全員です。でもイエスさまのところに戻ってきて「ありがとう」を言ったのはたった一人でした。イエスさまは他の人はどうしたのか？なぜ戻ってこないか？と言い、最後に戻ってきた人に「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」と言われました。「清くされた」のは10人ですが、「救われた」のは1人です。病気が治るということと、病気をなおしてくださった神さまと一緒にいてくださるということに気づくこととは違うのです。もちろんどっちもうれしいことですが、イエスさまがいつも一緒にいてくれるという喜びにまさる喜びはないのです。

分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□51番 「わたしはしゅのこどもです」

□改訂123番 「わたしは主のこどもです」

話してみよう

- ・他人に対して、神様に対してどのようなとき感謝していますか？
- ・信仰と感謝にどんな関係があるのでしょうか？
- ・今までに、人から感謝されたことはありますか？その時、どう感じましたか？

やってみよう

☆「赦された時のうれしい気持ちを表そう」

準備

こどもさんびか2の85番を歌う。

活動

赦された時、どんな気持ちになるか一人ひとりに聞く。

嬉しい、ニコニコしちゃう、幸せ、気分が明るくなる・・・など皆で分かち合う。

その気持ちを体でどう表せるか、考えます。

バンザイ！思い切りジャンプ！スキップしてランラン♪ギャロップなどが出たら、嬉しい気持ちを表して、歌いながら体を動かそう！

♪かみさまに かんしゃしましょう (ジャンプジャンプ)

ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ (ギャロップギャロップ)

かみさまは よいものを くださった (バンザイバンザイ)

ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ(スキップスキップ)

2016年10月16日 聖霊降臨後第22主日

福音書 ルカ 18:1-8

第一の日課 創世記 32:23-31

第二の日課 IIテモテ 3:14-4:5

まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをつまでもほうっておかれることがあろうか。 ルカ 18:7

ねらい

- ・人間の側の努力や心がけが全くなかった（できなくなった）ところにある。という祈りの本質の一つについて学ぶ。

- ・祈り続けることができるという神さまと人との絶対的な関係性を確認する。

説教作成のヒント

- ・イエス様の時代の「やもめ」の置かれた状況をしっかりと踏まえ、やもめが「裁判をしてもらおうように願う」ことの意味を知る。

- ・第一の日課から続けることの大切さ(祝福を求め続けたヤコブ)を考えてみる。

豆知識

- ・「裁き」には「悪を断罪する」という面だけでなく「善悪をはっきりさせ、弱い人を守る」という意味があり、「裁判を起こす」＝「やもめの願いが聞き届けられる」ということを意味する。

- ・「寡婦」や「孤児」はユダヤ教の社会において保護することが律法で定められていたが、聖書に登場する寡婦や孤児の生活を見ると、実際には厳しい状況に置かれた寡婦や孤児が多かったように思われる。

説教

みなさんは「裁判」を知っていますか？裁判とは、社会の中で起こる争い事を、憲法や法律など、社会の中にあるルールに従って解決をすることです。ルールを破った人にどんな罰を与えるか話し合ったり、人や会社がしたことが悪いことかどうか話し合ったりします。その話し合いの進行をしたり、どっちが悪いとか、どれだけ悪いとか、その話し合いの結論を出すのが裁判官のお仕事です。

日本では、この裁判官になるためには一生懸命勉強して、司法試験という試験に合格して、また別の学校に行って勉強します。でも昔のイスラエルでは、裁判官になるために勉強をしたり試験を受けたりする必要はありません。町で一番のお金持ちや、今でいう市長さんや町長さんが裁判官をしていたのです。

そんな裁判官の中にはルールを無視して自分に都合のいいように話し合いを進めたり、話し合いの結論を出したりする人もいました。

今日の福音書に出てきた「裁判官」もそんなずるい、自分勝手な裁判官でした。イエス様の時代の一番大切なルールであった旧約聖書を全く大切にしていなかったのです。

旧約聖書には夫を亡くした女の人や、お父さんもお母さんもいない子どもは、守ってくれる人がいないので、社会全体で守らなければならない。と書いてあります。けれども、みんながみんな、そんな社会の中で弱い立場ある人たちにやさしいわけではなく、中にはいじめたり、だましたりする人もいました。福音書に出てきた「やもめ＝夫を亡くした女の人」はきっと、誰かに騙されたりいじめられたりして、でも助けてくれる人が誰もいなくて、とても困っていたのでしょう。彼女は裁判官に頼って裁判をしてもらうことしかできなかったのです。それがずるい、自分勝手な裁判官であっても、このやもめは彼に頼むしかありませんでした。だから一生懸命頼みました、何度も何度も頼みました、裁判官にほったらかしにされても、出て行けといわれても、それでもこのやもめは彼に頼むしかなかったのです。

そしてこの裁判官は、このやもめがあまりにもうるさいので、ほったらかしにするより、訴えを聞いて裁判をして早く終わらせた方がめんどくさくない、と思うようになったのです。それほどまでに、このやもめは一生懸命、何度も何度も、この裁判官に頼みにいったのです。

イエス様はこのたとえ話を通して「気を落とさずに絶えず祈ること」の大切さを私たちに教えておられます。何もできなくても、からっぽになっても、「祈ること」はずっとできるということを教えておられるのです。神さまはいつも、いつまでも、私たちの祈りに耳を傾けてくださっているということを伝えてくれているのです。時間がかかっても、何もできなくても、祈り続けることはできるのです、そしてそこにはやさしく私たちの祈りを聞いてくださっている方がおられるのです。

どんな自分でも、折が良くても悪くても、耳を傾けて下さる神さまに絶えず祈り続けまし

よう。

分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□10 番 「ことりたちは」

□改訂 10 番 「ことりたちは」

やってみよう

☆反対言葉遊びで聖句の意味を考えてみよう！

<用意する物> ホワイトボード又は紙に今日の聖句を書いておく マーカー又はペン

①今日の聖書の言葉ちょっと難しいね。反対言葉にするとどんな意味になるかを初めに考えたいと思います。

②ボードや紙を使って反対の言葉に書き換える作業を子ども達と一緒にこなっていく。

③昼も夜も叫びもとめていない選ばれないひとたちのために裁きを行い、彼らをいつまでもほうっておく。え～？余計にわからなくなった・・・？。なんだか神さまってひどいお方のような意味になったね。反対言葉だから神さまってひどいお方じゃないってこと。

④みんなも知っている通り神さまはわたし達の見方だよね。神さまは諦めず、信じて祈っている人を知らんぷりしないよってことをいっているんだ。

⑤今から反対言葉を使って会話して遊んじゃおう！

ex:「今日ぼくね、教会に行かずに牧師先生に褒められなかったんだ」「それはかなしいね」

「今から何する？」「教会で遊ばない」・・・など、なんでも反対言葉にしてみよう！

話してみよう

やもめの人は大変なことに巻き込まれ、裁判官に助けを求めました。皆さんは誰かに助けをほしいと思うことがありますか。そういう時は、どのようにして解決しますか。

2016年10月23日 聖霊降臨後第23主日

福音書 ルカ 18:9-14

第一の日課 申命記 10:12-22

第二の日課 II テモテ 4:6-18

だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

ルカ 18:14

ねらい

・「正しさ」についてイエスに学ぶ（祈りとはありのままの自分を、ありのままに差し出すことであり、誰かや何かと比較するようなものではない）。

ヒント

- ・「義とする」とは人間的な正しさ、という以前に「人が神によって正しい者とされる」という意味を持つ。
- ・ファリサイ派は悪い者ではなく「高ぶる者」「うぬぼれている人」「他人を見下している人」として描かれる。
- ・「正しさ」は他者と比べて得られるものでも、自らの努力によって勝ち取るものではなく、ただ神に与えられるものである。

豆知識

- ・12節は申命記14章22節の律法がもとになっている。
- ・「胸を打つ」とは、痛恨の悲しみや悔俊のしるし。

説教

みなさんは「正しい人」ですか？（手をあげてもらおう）

では「正しい人」に聞きます、みなさんは何故、自分を「正しい」と思ったのですか？

では「正しい」と思わなかった人に聞きます、みなさんは何故、自分を「正しい」とは思わなかったのですか？

「正しさ」とは、何でしょうか？正しさとは良いこと？間違っていないということ？

二人の正しい人がいました。一人はファリサイ派の人でした。ファリサイ派というのはユダヤ教のグループの一つで、旧約聖書に書かれた掟を守ることを第一に考え、何があっても掟である律法に従っていました。律法を守ることはとても大変で、町の人々はみんなファリサイ派の人々を尊敬していました。そしてファリサイ派の人々は自分たちも、律法を守っているから、他の人たちにはできないことをやっているから、自分のことを正しい者だと思っていました。

もう一人は徴税人でした。徴税人とはローマにかわってユダヤの人々から税金を集めることを仕事としていて、外国人のために働いたり、外国人と会ったり話をしたりするため、律法に違反している判断され、ユダヤ教の人たち、特に祭司やファリサイ派の人たちから嫌われていました。徴税人は自分でも人から嫌われていることを知っていましたし、自分のやっていることが正しいことがどうか悩んでいました。

二人の正しい人はお祈りをしに神殿にやってきました。ファリサイ派の人は「お祈りが大切である」という律法を守るためにお祈りをします。そして自分は正しいと思っているので自信満々で立ってお祈りをします。心の中でも自分が如何に正しいかを神さまに伝え、そして視界に入ったであろう徴税人と自分を比べ、自分があんな人にならなかったことを神さまに感謝しました。一方の徴税人は、自分が正しいかどうかはわからず、むしろ悩んで、隅の方でお祈りをします。そして自己主張も感謝もせず、ただ憐れみを求めるお祈り

をしました。

これはイエス様が話したたとえ話です。そしてイエス様は神さまによって「正しい」とされたのは、ファリサイ派の人ではなく徴税人であると言いました。ファリサイ派の人も、徴税人もどちらも正しい人として、イエス様はたとえ話をされたのです。

しかしもちろん、この「正しさ」は同じ「正しさ」ではありません。ファリサイ派の人は自分は正しいと思っていましたが、神さまは正しい人とはしませんでした。逆に徴税人は自分は正しくない人だと思っていましたが、神さまは正しい人となりました。

神さまが正しいとするのは、自分は正しいと自分で思っている人よりも自分には正しくないところがあると自分を低くする人です。神さまが正しいとするのは、他人を見下す人ではなく、自分の弱さをよく知っているひとです。神さまが正しいとするのは神さまの前で自分を誇る人ではなく、憐れみを求める人です。100%正しい人がいるでしょうか？間違いを一度も犯したことの無い人がいるでしょうか？良いことづくめの人がいるでしょうか？イエスさまは私たちに弱くてもいいと言ってくださいます。自分は正しい人ですと言わなくてもいいと言ってくださいます。ただ、正しくない自分を神さまの前で正直に告白し、ごめんなさいと言うことを、正しくない私を正しい私に代えてくださいと祈ることの大切さを教えてくださっているのです。

分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□4番 「けさもわたしの」

□改訂115番 「この花のように」

話してみよう

- ・ファリサイ人は、どこ（なに）を見えていますか？
- ・徴税人は、どこ（なに）を見えていますか？
- ・高ぶる心は、あなたにもありますか？
- ・へりくだる心は、あなたにとってどのような心（こと）と思いますか？
- ・思い上がるってどんなことでしょうか？
- ・自分は正しいと思っている人と、悪いと思っている人と、どちらが罪深いと思いますか？

やってみよう

☆「罪ってなあに？」

今日の箇所を子どもたちと分かち合いましょう。

「罪」とはどんなものでしょうか。

子どもたちがどんな風に受け止めているのか、聞いてみたら色々挙がると思います。盗む、裏切る、傷つける・・・などが出てくるでしょうか。

聖書にある「罪」とは、盗んだ、傷つけた、などの行動そのものの事だけでなく、むしろ神

さまに知らん顔をする、また周りの人たちに対して優しさやいたわりのない自分勝手な思い等わたし達みんなの心の中にあるものだ、と語られています。

そのことを伝え、いっしょに祈りましょう。

罪をおかさないように、ではなく「神さまと私の心がいつも近くにあるように」また意地悪をしない、だけではなく「まわりの人たちと助け合って仲良く暮らしていけるように」。子どもたちには、愛なる神さまに向かってのびのびとした信仰をもつ人になって欲しいと願いますし、また、わたし達大人も同じ気持ちで祈りたいと思います。